

## 中国側報道4.

『人民網』（黒竜江頻道・本題專稿）2015年9月14日

## 正義を守り 平和を限りなく愛する中国の嫁緑川英子：

### 中日両国人民共同の娘

人民網佳木斯9月14日電（丁洋、楊海全、汪曉濤）

9月13日、佳木斯市は19名の特別の友人を迎えた。かれらは日本からやってきた、平和を主張する人士である。彼らは、中日両国人民の忠実な娘・緑川英子に厳かに追悼の花かごを捧げるとともに、抗日戦争勝利と世界の反ファシヨ戦争勝利70周年に際して、共同して正義を擁護し、限りなく平和を追求することを呼びかけている。



佳木斯烈士陵园には緑川英子と劉仁が並んで眠っている。1912年3月17日、緑川英子は日本のある技師の家庭に生まれた。日本名は長谷川テルである。1935年、英子は中国からの留学生劉仁と知り合い、その翌年結婚している。1937年1月、劉仁は帰国した。4月、25歳になったばかりの英子は実家の妨害を押し切って夫を追って中国の抗日戦場に赴いたのである。緑川英子は著作『愛と憎しみ』の中で次のように書いている\*。「私は憎む。両国人民の間の殺戮を、全身の力をこめて憎みに憎む。私の心は叫ぶ。両国人民のために戦争をやめろ!」。1938年末、郭沫若らの助けを得て、英子と劉仁は中国の当時の抗戦の中心地武漢に赴き、国民党中央宣伝部国際宣伝処において対日ラジオ放送の仕事に就き、中国の抗日戦争に公に参加することとなった。武漢から日本軍に向けたラジオ放送は大きな音声であった。「日本軍の同胞のみなさん! 誤って血を流してはなりません! あなた方の敵は海を隔てたこの地にはいないのです・・・」。

1947年1月10日、緑川英子は黒竜江佳木斯市で手術の際の感染症でわずか35

歳にして世を去った。その時、英子の娘劉曉嵐は生まれて 10 ヶ月。ハルピンで 30 年間生活した後、劉曉嵐は 1984 年日本に帰国し、1992 年に日本国籍を取得、名を長谷川曉子と改めた。

「テルは傑出した女性です！」と、緑川英子の娘劉曉嵐は語る。「母は暗黒の時代にはっきりと戦争が罪悪であり、平和の必要性を見抜いた、稀有の女性です」。

劉曉嵐も母の影響を受けて、中日友好の事業推進に一貫して尽力してきた。今年、7月1日、劉曉嵐は日本で「日中不再戦・平和友好の集い」に参加し、その場で、当時母が日本の侵略戦争に反対するために行った貢献を聴衆に語っている。「とてもささやかな行動です。中国人民は私を養育してくれました、日本人は私にとっても良くしてくれています。少しはお役に立たないと両国の人民に申し訳が立ちません」、このように劉曉嵐は語った。



9月13日、劉曉嵐は日中友好協会を中心とするその他 18 名のメンバーと共に、緑川英子・劉仁の陵墓前に花籠を飾り、黙禱を捧げた。「良心のある人、知性のある人は限りなく平和を追求しなければなりません。私たちは戦争をもっとよく理解し、私たちの努力を通じて戦争を二度と起こさせないようにすることを希望いたします」。いかなる信念も、日中友好人士の平和への一貫した取り組みと不再戦への呼びかけがあるからこそ、支えられるのです。最後に劉曉嵐はこのように結んだ。

\*長谷川テル「愛と憎しみ」は 1937 年 8 月上海で書かれた詩。翻訳に際しては、宮本正男編『長谷川テル作品集』亜紀書房、1979 年 pp.124-126 を使わせて戴いた。